

校長室より

「天空高き」



第86号



平成28年8月29日

2016 情熱疾走 中国総体—全国高等学校総合体育大会—

今年の総体は、7月28日（木）～8月20日（土）にかけて、中国5県で開催されました。

山口県では、6競技が開催され、そのうち、岩国市ではフェンシングとカヌー競技がありました。

フェンシング会場である岩国市総合体育館には本校から生徒25名、教員2名がお手伝いをしました。2年前の山口国体でも同様に会場のお世話をした経験がありましたので、手慣れたもので、会場関係者からお褒めの言葉を頂戴しました。また、周南地区で開催されたハンドボール競技、長門地区での空手道競技、山防地区のバレー競技でも、多くの生徒、教員がお世話しました。一年で最も暑い時期で大変だったと思いますが、病気や怪我もなく大役を果たすことが出来ました。常日頃からの先生方のご指導の賜物と感謝するとともに、参加生徒の皆さん、お疲れ様でした。

この大会には、本校から女子ハンドボール部、男女空手道部、柔道男子個人戦、水泳競技、アーチェリー個人戦に出場を果たしました。

戦績は、女子ハンドボール部が5位入賞、男子空手道部が団体組手で初のベスト16でした。

各部の目標はそれぞれだと思いますが、出場した皆さんは自分の持てる力を100%発揮し、全力で闘ったことだと思います。

今回は山口県で開催されたこともあって空手道部と女子ハンドボール部にはたくさんの生徒の皆さんが、応援に駆けつけてくれました。

勝利を目指しての選手の熱い闘い、応援する生徒たちの熱い声援。その一点に掛ける若いエネルギーを目の当たりにして、会場の多くの方々が感動と勇気そして清々しさを体感したのではないのでしょうか。



「あなたの『これから』が、あなたの『これまで』を決めるのです」

佐治春夫（鈴鹿短期大学名誉学長・理学博士）

ちょっとためになる話ー日本語についてー

以前、日本に住む外国人に日本語のあいまいさについて尋ねたことがあります。多くの方が挙げたのが、「ちょっと」「まあ」「一応」「かなり」「ほぼ」「とりあえず」「そのうち」などの言葉です。「どうも」や「結構です」も、肯定なのか否定なのか判断がつかないことがたびたびある、という答えでした。

ある中国人留学生の話です。

大学で奨学金の申請をしたいと相談したところ、教授から「ちょっと難しいですね」と言われました。その学生は「多少の困難」はあるけれど可能性があるとして解釈したのですが、最初からダメだったというのです。先生の気遣いはありがたいけれど、はっきり断ってくれた方が納得できるという話でした。

日本人同士ならあいまいな表現でも察しはつきます。しかし、文化や習慣が異なる国のの人にとっては、肯定なのか否定なのかが曖昧だと支障を来すことにもなりかねません。これは、外国人に限らず、日本語を母語とする者同士でも同じことです。

日本に住む外国人に日本語のあいまいさを尋ねた折、日本人の話し方に対する注文も書いてもらいました。ある外国人の答えです。

「Think clearly, Speak clearly!」

はっきり話すためには、しっかり考えること。あいまいさは日本語にあるのではなく、話す人の態度次第です。「考える」「話す」に加え、話したことを誠実に「実行する」ことが相手との信頼関係の基本です。これは相手が外国人でも日本人でも同じことです。

出典「ことば新事情」加藤昌男NHK放送研修センター日本語センター専門委員

最高の舞台ーリオオリンピックからー

日本の裏側にあるブラジルのリオデジャネイロで、南米初のオリンピックが無事閉幕しました。

時差が12時間ということで、日本時間の夜の9時が現地では朝の9時ということになり、LIVE放送が深夜から早朝の時間帯でした。

連日の日本選手の活躍で、多くの皆さんは睡眠不足に悩まされたと思います。私もその一人ですが、彼らのオリンピックに賭ける情熱と普段の限界に近い努力の積み重ねの集大成がこのオリンピックの場であるので、見る者を釘づけにします。特にすさまじかったのが、男子体操個人総合戦だと思います。

翌日の新聞記事(8月12日、朝日新聞より)からの抜粋ですが、まず、内村航平選手のコメント。

「最後は鉄棒。『いつも通りやって着地を止めるだけと、シンプルに考えた』演技中、



冷静でいられた。マットに吸い込まれるように着地を止めた。『これで負けても悔いはない』。そう思える演技で結果を待った。ベルニャエフが着地で一步前に弾んだ分、逆転した。『もう疲れ切った。何も出ないというところまで出し切ってとれたので、うれしいというより幸せ。本当に一番の幸せ者だと思う』

オレグ・ベルニャエフのコメント。

「最後の鉄棒で、内村は自分より一点も高い 15.800 点を出した。記者会見で内村にこんな質問が向けられた。『審判があなたにシンパシー(親しみ)を感じているから、こんな(高い)点数が出たのでは?』自分への質問ではないのに、わざわざこう言い返した。『いったん得点が出れば、それは公平な結果。その質問は無駄だと思う』6種目を演じて、内村との差は 0.099 点。『ここまで彼に肉薄した選手は過去にはいない』と誇った。そして誓った。『ものすごく内村を尊敬しているけれど、次は僕が勝つ』

メキシコ(1968)、ミュンヘン(1972)五輪で男子個人総合を連覇した加藤沢男さんの話。

「勝負の舞台が大きくなればなるほど、必ずとっていいほど切羽詰まった状況に陥る。だが、内村選手は勝ち負けを超越して、自分の世界に入っていたように見えた。それが大事。どんな場面にも対応できるよう、想像を絶するほど練習を積んできた証だ」

絶体絶命の窮地の中、最後の鉄棒で普段通りの演技をこなし見事に着地を止めた。内村選手の凄さ、そして最後の演技で大逆転を許したベルニャエフの内村選手の鉄棒演技の得点に対するリスペクト。

オリンピックが選手にとっての最高峰たる所以(ゆえん)がここに凝縮されているように思いました。

夏を制する者は入試を制す！一夏は入試の^{てんのうざん}天王山一

私事になりますが、今から 44 年前になりますが、高校 3 年生の夏休みを迎え、受験に向けての夏休みの計画を立てました。

当時、どの家庭もエアコンはないので、涼しい時間帯、7 時~11 時半、午後は 4 時~6 時半、8 時~11 時の 1 日 10 時間の学習時間を設定しました。教科に割り当てた時間は国数英を各 2 時間。理社に 3 時間。語彙力(英単語・熟語、漢字・熟語、古語・熟語)に 1 時間。

夏休み 40 日間ありましたが、課外のない 30 日間は、自宅でこの計画を実行しました。

夏休みを終え、達成度は 80% という自己評価をしました。8 割達成できればと考えていたので、自分なりによく頑張ったな、という思いが記憶にあります。

2 学期に入ってからその規則正しい生活習慣は続き、成績も次第に向上しました



が、第一志望の大学には合格することができませんでした。

不合格の原因は、志望大学の入試対策が甘かったことと、「最後には何とかなるさ」と自分の力を過信してしまったからだと思います。

これから就職や進学に挑む3年生の皆さん、校長便り、7月号で ナポレオン・ヒルの「信念の力」の詩を紹介しました。

その詩の中で、ナポレオン・ヒルは「強いチームが勝てるとは限らない。『私はできる』I can do it. そう考える人が、結局は勝つのだ」といっています。

I can do it. 私はできる。慢心することなく自分を信じ、あなたをサポートしてくれる人達に感謝の心をいつも胸に秘め、しっかりと志望校対策を講じ、最後の最後まで各自の夢や目標の実現のために小さな努力を積み重ねてください。

変わる大学入試とICT—ネット出願—

皆さんはネット出願という言葉を知っていますか。平成28年度大学入試でインターネット出願・入学検定料決済可能な大学が103校（国公立大4校、私立大99校）でした。

平成29年度入試では、広島大学、九州大学、京都大学でも可能になりました。

ネット出願は、願書の取り寄せが不要、出願手続きが24時間可能で、記入ミスなどもシステム上でチェックされ、志願者にとっても大変利便性が増します。

近隣の広島修道大、広島国際大や安田女子大ではすでに導入されています。

将来的には大学入試でコンピュータを使用して入試が行われる可能性があります。例えば、CBTは、Computer Based Testingの略で、文字通りコンピュータを利用したテストのことです。他に、TOEFLなどで行われているIBT（Internet Based Testing、インターネットを使ったテスト）もあります。

CBTの導入によって、従来の紙媒体のテストでは困難だった出題が可能になります。例えば、問題に動画や大量の資料を使ったり、回答に際して音声を利用することも可能です。また、紙媒体のテストでは、終了後、いったん回収して採点を行う必要がありましたが、CBTでは回答と同時に採点を行うことができ、結果をすぐに提供できます。実際に、CAD利用技術者試験（2級）ではCBT方式による試験が行われていますし、医歯薬系の共用試験でもCBTによるテストが実施されています。

一方では、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、生徒がコンピュータに触れる機会が減少して、キーボード入力のスキルの低下が懸念されています。コンピュータとタブレット端末それぞれの価値を改めて見つめ直し、ICT（Information and Communication Technologyの略で、日本語では情報通信技術）を適切に使い分けながら、生徒の皆さんがICTを活用する力が求められています。

